

7月学院福音化、第2課

がくいんふくいんかだい か かみさま すく しんこう あじ
学院福音化第2課「神様がくださった救いは信仰で味わうことができます」です。

ガラテヤ2:20をよみます。

「もはや私わたしがい生きていいるのではなく、キリストが私わたしのうちに生きておられるのです。

いまわたしわたしにいく いにいて生きているいのちは、私わたしを愛し、私わたしのためにご自分じぶんをあたえてくださ
った、神かみの御子みこに対する信仰しんこうによるのです。」

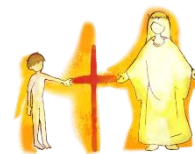
こんかい
今回のガラテヤ2章しょうを通してパウロの神学しんがくの華はなともいえる「信仰しんこうによる義ぎ」についてい
っしょに黙想もくそうしましょう。

しんやくせいしょ じゆんじよ
新約聖書の順序しんこうでは、ローマ1:17で「義人ぎじんは信仰しんこうによって生きる」というみことばが
さいしょ きろく
最初に記録きろくされていますが、先週せんしゅうもう申し上げたように、パウロの手紙てがみの中で最初に書なかれた
たものがガラテヤ人びとへの手紙てがみであるため、信仰しんこうによって義ぎと認めみとられるということは、ガ
ラテヤ人びとへの手紙てがみが最初さいしょです。いっしょに読よんでみましょう。

ガラ2:16「しかし、人ひとは律法りっぽうを行おこなうことによってではなく、ただイエス・キリストを信しん
じることによって義ぎと認めみとられると知しって、私わたしたちもキリスト・イエスを信しんじました。
りっぽう おこな
律法りっぽうを行おこなうことによってではなく、キリストを信しんじることによって義ぎと認めみとられるため
です。というのは、肉にくなる者ものはだれも、律法りっぽうを行おこなうことによって義ぎと認めみとられないか
らです。」

ただ しんこうせいいかつ
正しい信仰生活せいいかつをしている人ひとには「信仰しんこうによって義ぎと認めみとられる」、「救すくいは信仰しんこうによっ
て得えることができる」などの言葉ことばはあまりにも当然とうぜんに聞きこえる言葉ことばでしょう。しかし、
りっぽうちゆうしん しんこうせいいかつ なんぜんねん
律法中心りっぽうちゆうしんの信仰生活しんこうせいいかつを何千年なんぜんねんもしてきたユダヤ人じんにとっては、それは、でたらめで、
こんきよ
根拠こんきよもないことであり、理解りかいできない言葉ことばなのです。

だれよりも律法りっぽうによる義ぎについては非難ひなんされるところがない者ものだったパウロは、復活ふっかつしたキリストあに会あった後のち、イエス・キリストしんを信しんじる信仰しんこうによって救すくいを得え、義人ぎじんとされることを手紙てがみの様々さまざまな所ところで記録きろくしています。(ローマ1:17、3:22、3:28、4:5、5:1、ガラ2:16、エペ2:8、ピリピ3:9)。



代表だいひょうとしてローマ1:17節せつを讀よんでみましょう。

「福音ふくいんには神かみの義ぎが啓示けいじされていて、信仰しんこうに始はじまり信仰しんこうに進すすませるからです。「義人ぎじんは信仰しんこうによって生いきる」と書かいてあるとおりです。」

これはただパウロの主張しゅちやうであるだけではなく、聖書せいしょ全体ぜんたいに流ながれる主題しゅだいです。

今日は、上うへにある聖書せいしょのみことばを通して「義ぎと認みとめられる」ということは何なにであるのか、イエス・キリストしんを信しんじるというのはいいまの意味みであるのかを具ぐ体的たいに見みてみましょう。

① ガラ2:16では、法廷用語ほうていようごであるギリシャ語ご「ディカイオス(δικαιος)」から派生はせいした「義ぎ」という単語たんごを3回も繰かえり返して使用しようしています。3回も使用かいしているのを見みると、重じゅう要ような単語たんごであることがわかります。

「義ぎ」は神様かみさまの属性ぞくせいに属ぞくするものなので、その根源こんげんが人間にんげんにないことを知らなければなりません。人間にんげんが自分じぶんから働はたらきかける(能動的な)努力どりよくによってなされるわけではないので、この節せつでは「受動態じゅうどうたい(受身、~される)」として記録きろくされています。

また、人間にんげんから義ぎになるような何かなにがあるから義ぎにしてあげるといいの意味みではなく、義ぎだと認めてあげるということなのです。

義人ぎじんはいない、一人ひとりもいない(ローマ3:10)、すべての人ひとは罪つみを犯おかして、神かみの栄光えいこうを受けることができない(ローマ3:23)ので、イエス・キリストしんをとお通かして彼かれを信しんじる者ものたちを義ぎと認みとめてくださる道みちを開ひらいてくださったということなのです。

2 二番目に、イエス・キリストを信じるということはどういうことなのかを考えてみましょう。

まず、「信仰」の出発と所有権が私にあるのではないことを知らなければなりません。ガラ2:16で信仰というギリシャ語の「ピステイス(πιστις)」という名詞の尾が「ピステオス(πιστεως)」という名詞の所有格(「~の」という意味)になっています。この言葉を正しく解釈すると、「イエス・キリストを信じることによって」という目的格ではなく、「イエス・キリストの信仰によって」という所有格で解釈しなければなりません(ローマ3:22も同じ)。ですから、十字架で死んで復活するまで、父なる神に従い、信仰の創始者であり、完成者(12:2)となったイエス・キリストのその信仰が私たちに与えられたので、神様は私たちの中にある御子イエスの信仰を見て、私たちをイエス・キリストを信じる者と認めてくださるのです。それをローマ1:17に記録したように、「信仰に始まり信仰に進ませる」と話すのです。



イエス・キリストの信仰の完成の場は十字架でした。その信仰を恵みの賜物として受けて、イエス・キリストを信じる者となった私たちに求められるのは、「私」は十字架で死んで、私の中に「キリスト」が生きておられることを毎日確認することです。それが日々自分の十字架を負う人生です。私を愛し、私のために自分を与えてくださった神の御子イエス・キリストを信じる信仰の中でのみ、生きることを願います。